



● 申間市立図書館
☎ 72-1177
● 開館 = 午前10時～午後6時
● 休館日 = 毎週月曜日
● HP = <http://www.city.kushima.lg.jp/library/index.html>

新刊情報

鯖断ち (坂岡真/著)
完全図解動脈硬化・コレステロールのすべて (白井厚治/監修)
女子少年院の少女たち (中村すえ/著)
その生きづらさ、「かくれ繊細さん」かも
しれません (時田ひさ子/著)
我、過てり (仁木英之/著)
騙る (黒川博行/著)
ふつうでない時をふつうに生きる
(岸本葉子/著)
二人がいた食卓 (遠藤彩見/著)

「棚からつづ貝」



イモトアヤコ/著
南極でテントが壊れても平気なじい、全力で泥水に飛び込むおもしろ女優、大好きな家族…。世界中を飛び回りながら、イモトが出会った大切な人たちをつづった、初のエッセイ集。「CREA」連載を加筆し書籍化。

「ノラネコぐんだん ケーキをたべる」



工藤ノリコ/著
ワンワンちゃんのケーキ屋さんを外からのぞくノラネコぐんだん。うっかりアリの踏んでしまい、アリンコビームを発射され、アリの大きさに。ということは、店に入って、見つからないでケーキを好きなだけ食べることができる!?

「おやすみの本」



吉田篤弘/文と絵
まだ書かれていないこの本は、きっと、小さなものと静かなものについて書かれた本になる。小説や詩になる前の言葉をそのまま並べた書き下ろし小文集。著者による挿絵も多数掲載。



告知 蔵書点検

図書館の本の点検のため、
2月8日(月)～13日(土)は
休館します。

串間の新しい玄関風景

昨年は新型コロナウイルスの影響を受け、市外や県外に出ている家族や友人が串間に帰省することが難しいまま新年を迎えることとなりました。そんな市外や県外で頑張る家族や友人、そして、あなた自身が仕事や旅行先から串間に戻って来た際、「串間に帰ってきたな」と感じるのはどんな風景を目にしたときでしょうか。

鹿児島県志布志市との県境に位置する高松海水浴場。夏は海水浴客でにぎわうビーチのすぐ隣の高松漁村広場では現在、キャンプ施設の設置工事が行われています。そこに昨年11月、大きく「串間」と描かれた素敵なオブジェが設置されたのをご存じでしょうか。このオブジェは、市が実施する「まち・ひととらめく☆よかまち創造事業」を活用して、まちづくりやひとづくりといった地域活動を熱心に行っている串間青年会議所の皆さんの手により設置されました。

雄大な自然を身近に感じる事ができ穏やかに透き通る海が広がる高松海水浴場で、住民や観光客の方に四季折々の風景を絡めた情報発信をSNSなどにて行ってもらう、関係人口の増加を図ることを目的としています。緑が映える広場を土台に、背景を彩る青々とした海と空に支えられたこのオブジェの佇まいは、たしかに写真映えしそうですね。串間青

年会議所では、このオブジェと共に写真を撮って「＃よかまち串間」のハッシュタグを付けSNSなどに投稿してもらおうと呼び掛けています。SNSを利用されている方はぜひご協力をお願いします。そうでない方も、ぜひ一度実物を見に行ってみて写真を撮ってみたいですね。

そして、このオブジェにはもう一つの意味があります。実物を見に行かれた方はぜひ、右下に取り付けられたSDGsのプレートにもご注目ください。SDGsとは、2015年に国連サミットで採択された、持続可能な開発目標のことです(詳しくは昨年の広報くしま12月号などをご覧ください)。串間青年会議所では、このオブジェの制作・設置を通じて、串間市内でのSDGsの理解・促進を図ることも目的としています。SDGsって何?と思われる方はぜひご自身でいろいろと調べてみてください。

新型コロナウイルスの影響が落ち着き、皆さんが安心して帰省されてくるときに、このオブジェが、「串間に帰ってきたな」と思える風景の一つになるといいですね。



市長コラム
川を上れ、海を渡れ

現在、新型コロナウイルス感染症の影響により世界中が疲弊しているように思われます。このコロナ禍から脱却し、延期された東京オリンピック・パラリンピックを無事に開催し、世界中に歓喜を届けることが日本の使命であり、今こそ東日本大震災からの復興をPRする絶好の機会だと考えます。

前回の東京オリンピックは1964年に開催され、敗戦後の復興を遂げた日本が、再び国際社会の中心に復帰する機会となりました。敗戦から76年が経ちますが、戦争で家族を亡くした方や、青春を棒に振り、涙や汗を流し続けた日々を送られた方々の苦しみは計り知れません。

先人は「川を上り、海を渡れ」と歴史を学ぶことが大切

だと教えてくれました。「川を上り」とは、「歴史をさかのぼって見識を深めよ」、「海を渡れ」とは、「海外に目を向けて視野を広げよ」という教えです。私も各方面の先輩方から、さまざまな経験を伺い、「夢を追う勇気や夢を実現するために努力すること、耐え忍ぶことが必要である」と知らされました。

先日、木代地区で91歳になられる田中サダコさまにお会いし、昔の話を聞かせていただきました。戦時中の辛抱や我慢、苦勞が美德とされていた時代で、田中さまのお話は神の教えのような説得力を感じました。

当時は、14、15歳の子どもでも命を懸けて、生き延びることに必死でした。そのためにたくさん苦勞や辛抱、我慢を重ねたと思います。現代をみるとそのようなたくましい精神力を培うことは、難しい環境となりました。移動するにも徒歩だったのが車に変わり、ささいな連絡もスマートフォンで済まし、会議に至ってもオンラインで済まされます。昔と比べ、人と人とのつながりが希薄になりつつある



田中サダコさんとの記念写真

と感じます。特に現在のコロナ禍においては、助け合い、支え合い、励まし合うことが大切です。皆が努力し、皆が支え合い、誰一人取り残さない世界の実現を誓うSDGsの目標を達成することがこれからの社会のおきてとなります。川を上り、海を渡った先人の功績を礎に、現代が築かれてきました。希望ある将来を創るためには、今が辛抱、我慢の時です。

田中さまは北島三郎氏の「山」という歌が好きとのこと。その歌詞で、「目先のことにうろちよするな 昨日と同じ今日はない それが師匠(おやじ)の口癖だった たった一度の人生を 花にするのもがまんなら 山にするのもまたがまん」とあります。偉大なる先人、先達の教えを教訓に今日を生きていきたいと思います。

地域おこし協力隊 活動日記



No.46 **キュウリ 研修**
田中 崇史さん

昨年からキュウリ農家さんにお世話になり、キュウリ栽培に関する作業を学ばせていただいています。日に日に成長していくキュウリを見てみると楽しくなってくる反面、今年から自分自身でキュウリを栽培できるのかと少し不安にもなっています。そんな不安をわずかでも払拭(ふっしょく)するために、キュウリ定植時から行っていたのが定点観察です。

定点観察の目的は「キュウリの生育を数値で知るため」であり、ベテラン農家さんが言う「太い茎や長い節間(茎の節と節の間の部分)などといった感覚的な目安を実際の数値で理解できるように目指しています。観察の内容は、節間の長・径や葉長といったキュウリの生体に関する項目を、上位6節まで節毎に1つ1つ測定するという作業です。加えて、根や茎の先端にあつて細胞分裂を行う部分である生長点の色変化に気づけるように生長点付近と配色カード(濃淡や明度などの異なる多種多様な色

が収録されているカード)を照らし合わせながら毎日撮影しています。配色カードを基準にすることで、今現在の生長点付近の色が以前の色と相対的にどのくらい異なるのかを学ぶことができます。

これらの作業は実際に自分がキュウリ栽培を始めたときにどのくらい役に立つかは分かりませんが、3カ月以上毎日観察をしていると、当初よりもキュウリの変化に対してすぐく敏感になっていることに気づき、時間はかかっているけれど、これらの作業が無駄ではないと感じています。

当然ながら、ツル降ろしや収穫といった実作業を学ばせていただいているので、実作業のコツやノウハウをしっかり吸収し、可能な限り多くものを習得していくように努めます。

写真はキュウリ定植後25日のハウス内写真です。まだキュウリが小さく、ハウス内が色とりどりで、お気に入りの風景です。